

▼バソメット錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】テラゾシン塩酸塩 (U) Terazosin Hydrochloride 【分類】 排尿障害改善剤・降圧剤 [α 1 遮断薬]

【単位】 ▼0.25mg・▼0.5mg・▼1mg・▼2mg/錠

【常用量】 ■高血圧症：1日0.5mg (1回0.25mg1日2回) より投与を始め、効果が不十分な場合は1日1~4mgに漸増 [最大8mg]

■前立腺肥大症に伴う排尿障害：1日1mg (1回0.5mg1日2回) より投与を始め、1日2mgに漸増

【用法】 1日2回

【透析患者への投与方法】 腎疾患による薬物動態の変化はないため、減量する必要はない (3,10,12, Am J Med 23; 80(5B): 94-9,1986)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (3,10,12)

【その他の報告】 PK は腎機能低下の影響を受けない (Somberg JC, et al: Am Heart J 122: 901-5, 1991 PMID: 1678920)

【特徴】 選択的 α 1 遮断剤でプラゾシンに比べて半減期が 11.5~12 時間と長い。

【主な副作用・毒性】 意識喪失、肝機能障害・黄疸、体位性低血圧、反射性頻脈、めまい、頭痛、動悸、不整脈、発疹、ほてり、貧血、頻尿など。投与初期に起立性低血圧が起こりやすい (このため少量より開始)。

【モニターすべき項目】 血圧 (U)

【吸収】 急速に、ほぼ完全に吸収される。食物の影響を受けない (U) 95%以上、食事摂取の影響なく個人差も少ない (11) 腎疾患による吸収への影響はない (Am J Med 23; 80(5B): 94-99, 1986)

【F】 初回通過効果をほとんど受けず、約 90% (U,11) 82% (10)

【tmax】 約 1hr (1,U) 1~2hr (11)

【代謝】 肝；4つの代謝物が同定されている。そのうちの1つ (テラゾシンのピペラジン誘導体) は降圧作用活性をもつ (U)

【排泄】 尿中未変化体排泄率 12.9% [po, 24hr まで] (1) 10% (U) 30% (19) 5% (11) 糞便中未変化体排泄率 20% (U) 25% (11) 尿中回収率 40% (U) 30% (11) 腎疾患による尿中排泄率への影響はない (Am J Med 23; 80(5B): 94-9,1986)

【CL】 80mL/min (11) 55mL/min (10) 51mL/min/kg (1) 腎疾患による血漿 CL への影響はない (Am J Med 23; 80(5B): 94-9,1986) 【非腎 CL/総 CL】 90% (10)

【t1/2】 β 相 12~18hr (1) 約 12hr (U,11) 9~12hr (10,12) 12hr (Somberg JC, et al: Am Heart J 122: 901-5, 1991 PMID: 1678920) 【透析患者の t1/2】 8~12hr

(10,12) 腎疾患による t1/2 への影響はない (Am J Med 23; 80(5B): 94-99,1986)

【蛋白結合率】 90~94% (U,11,12) 90% (10) 79.3~93.9% (1)

【Vd】 17L/man [po] (1) 0.3L/kg (10) 0.5~0.9L/kg (12) 28L/man (11) 腎疾患による Vd への影響はない (Am J Med 23; 80(5B): 94-99, 1986)

【MW】 459.93

【透析性】 透析されない (1) ダイアライザーからの除去率 4.3% (1)

【TDM のポイント】 TDM の対象にはならない 【OW 係数】 低い (11) 49 [クロロホルム/buffer, pH8] (1) 【pKa】 7.05

【相互作用】 他の降圧剤、PDE5 阻害剤との併用注意 (1)

【効果発現時間】 単回投与：15min (U) 【最大効果発現時間】 単回投与：2~3hr, 連続投与：6~8 週間まで (U)

【効果持続時間】 単回投与：24hr (U)

【更新日】 20220908

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。